

【建設現場の熱中症対策実態調査 2024】

9割以上が配属先の熱中症対策を評価 さらに9割が独自の対策を実施 ～現場で働くエンジニア職 462名にアンケート調査～

建設業界に特化した人材アウトソーシングを行う株式会社アーキ・ジャパン（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：吉田 周平）は、建設現場などに従事する当社従業員（10代～70代の男女462名）を対象に「熱中症」に関するアンケート調査を実施しました。

■ サマリー

★配属先の建設現場における熱中症対策について回答者の **9割以上が評価**（十分に行っている49%、ある程度行っている44%）

★回答者の **9割が自身で熱中症対策を実施**（対策をしている36%、ある程度している55%）

★職場で熱中症にかかったことがある人は**全体の7%**（34人）

■ 調査概要

調査対象：(株)アーキ・ジャパン エンジニア職 計462名

調査期間：2024年7月8日～2024年7月12日（5日間）

調査方法：Web アンケート

■ 調査背景

建設業では例年熱中症による死傷者が多く発生しており、2019年～2023年の業種別熱中症死傷者数をみると、建設業は計886名と最も多く発生していることが分かっています。また、2023年の熱中症による死亡災害は全業種の中で最も多い12件あったことから、建設業において熱中症は深刻な問題であるといえます。

今年度は厚生労働省が「STOP！熱中症 クールワークキャンペーン」を実施しており、職場における熱中症対策の呼びかけがされていることから、対策の重要性をうかがうことができます。

（参考）令和5年 職場における熱中症による死傷災害の発生状況（確定値）【厚生労働省】

<https://www.mhlw.go.jp/content/11303000/001100761.pdf>

（参考）令和6年 「STOP！熱中症 クールワークキャンペーン」実施要綱 【厚生労働省】

<https://www.mhlw.go.jp/content/11303000/001100767.pdf>

今年も連日猛暑日が続く、業務を行う上で熱中症への対策が必須となっています。そこで各建設現場では熱中症対策は行われているのか、また具体的にどのような対策がなされているのかを調査し、結果をまとめました。

■ 調査結果

★配属先の建設現場における熱中症対策について回答者の9割以上が評価（十分に行っている49%、ある程度行っている44%）

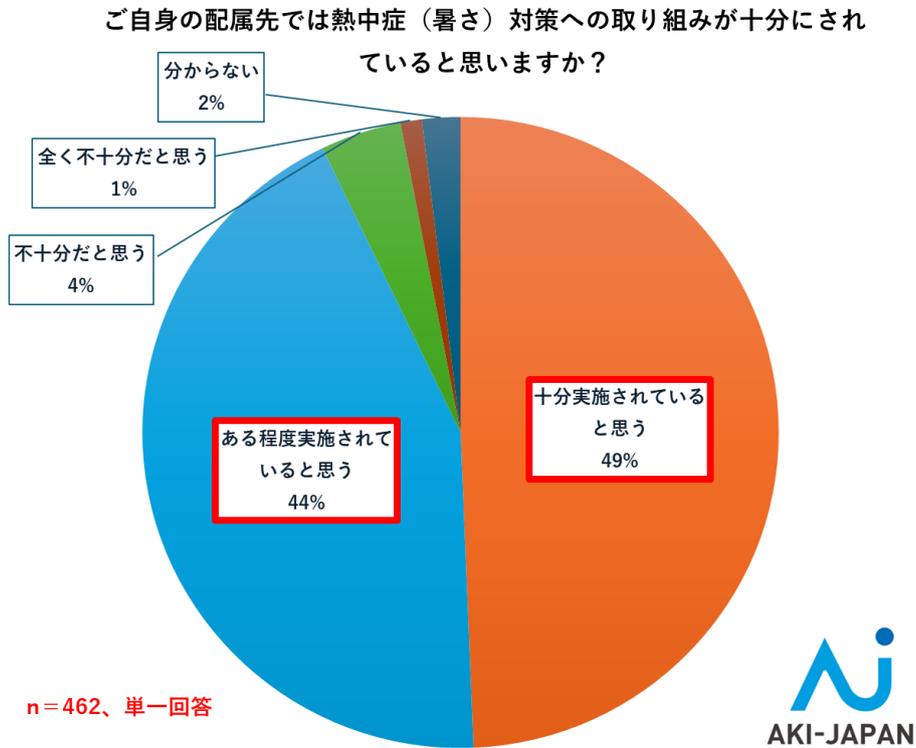
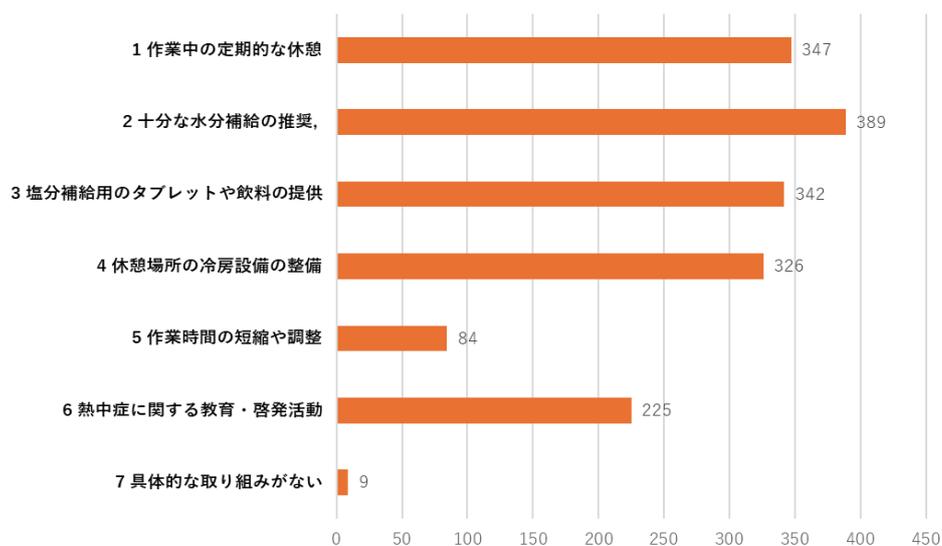


図1 各配属先における熱中症（暑さ）対策への取り組みに対する評価

ご自身の配属先では、熱中症（暑さ）対策としてどのような取り組みがされていますか？（複数選択可）



n = 462、複数回答

図2 各配属先における具体的な熱中症（暑さ）対策

全体の9割（「十分実施されていると思う」（49%）、「ある程度実施されていると思う」（44%））が各配属先における熱中症対策を評価する結果となりました。

具体的な対策として最も多かったものは「十分な水分補給の推奨（389名）」で、8割が実施していました。また、「塩分補給用のタブレットや飲料の提供（342名）」を実施している配属先も多く、水分だけではなく、熱中症予防に重要な塩分補給を積極的に促していることが分かります。さらに、「作業中の定期的な休憩（347名）」は7割以上が実施しており、「休憩場所の冷房設備の整備（326名）」という回答からも定期的に休憩を取ることに加えて、休憩場所で涼むことができるように工夫する配属先が多いことも分かります。

その他にも、「熱中症に関する教育・啓発活動（225名）」を全体の約半数が実施するなど、熱中症に対する理解を深め、対策を周知するための動きも多く見られています。

その他自由記述回答では、「空調服の支給」や「製氷機の設置」、「休憩時に詰所の前でかき氷の配布」などの暑さ対策を行う配属先も見受けられました。

★回答者の9割が自身で熱中症対策を実施（対策をしている36%、ある程度している55%）

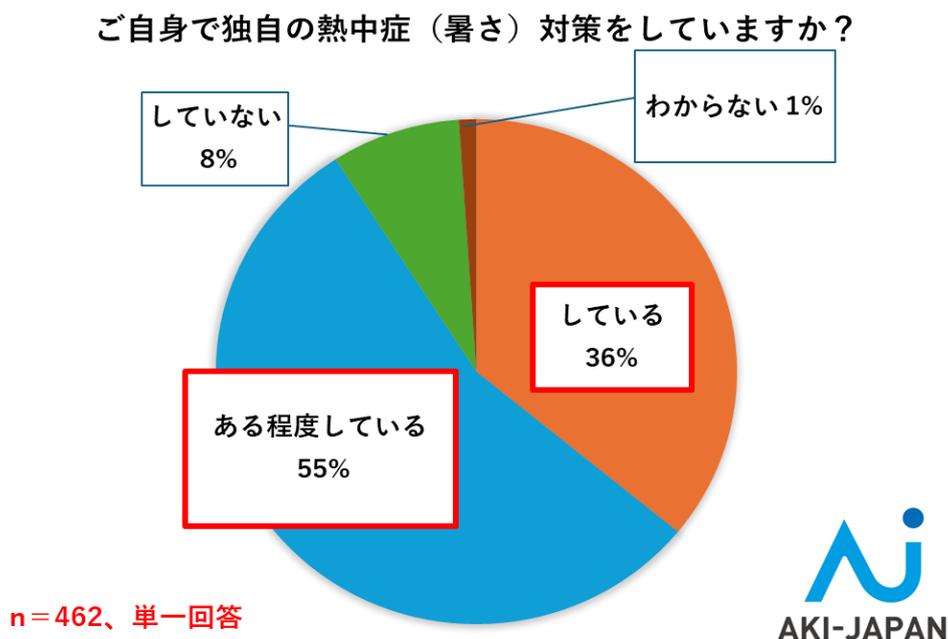


図3 回答者独自の熱中症（暑さ）対策について

各配属先での熱中症（暑さ）対策のほかに、独自の対策をしていると回答した人数は約9割（「している（36%）」、「ある程度している（55%）」）という結果となりました。現場での対策と合わせて、自身でも熱中症に対して危機感を持ち、対策を行う姿勢をうかがうことができます。

現場で使用していてよかったと感じるグッズとして人気を集めていたものが空調服、ハンディーファン、冷感タオル、冷感スプレー、ネッククーラーといった涼しさを保つアイテムで、猛暑日が続く今年により需要が高まっているようです。また、塩分を補給するアイテムも人気があり、塩分タブレットや塩飴、塩ゼリーなど気軽に塩分を補うことができるアイテムがよく利用されています。

★職場で熱中症にかかったことがある人は全体の7%（34人）

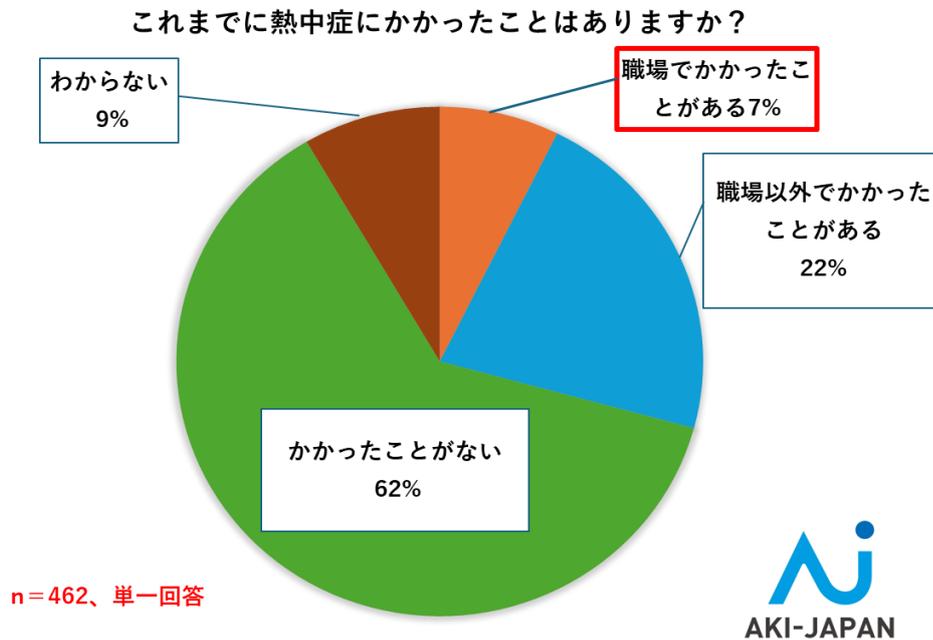


図4 熱中症にかかった経験の有無

「これまでに熱中症にかかったことがありますか？」という問いに対しては「かかったことがない」と回答した人が全体の62%、「職場以外でかかったことがある」と回答した人が22%、「職場でかかったことがある」と回答した人が7%いることが分かりました。また、職場・職場以外を問わず熱中症にかかったことがある人のうち、96%は自身で独自の対策を行っていると回答し、（職場・職場以外を問わず）熱中症にかかったことのない人と比べるとより慎重に対策を行っていると考えられます。

さらに「配属先で働く際の、熱中症に対する不安や懸念、要望などについて、具体的に教えてください。」という質問に対して、実際に熱中症にかかった人が出た場合の対処や屋上での作業への不安など74の回答を得ることができました。

<自由回答・一部抜粋>

- ・熱中症者が出た際の救護活動を即座にできるか不安（20代女性）
- ・屋上作業や日陰がない場所での作業を監視する時、熱中症で倒れないか不安。（20代女性）

■ 総括

・昨今、猛暑日が続く建設業界全体でも熱中症への対策に力を入れており、企業において9割が対策を実施していること、そして個人においても熱中症に対して危機感を持ち、自身に合った対策を取ることでいかに暑さを予防して就業するかを考えていることがわかりました。

・企業側（現場）での対策に、9割が十分・ある程度対応していると評価している一方で、7%が職務中に熱中症を発症しており、さらなる対応が求められると考えます。

■ 回答者概要

回答者数：462 名

性別：男 306 名 (66%)、女 148 名 (32%)、無回答 8 名 (2%)

年代：10 代 1 名 (0.2%)、20 代 305 名 (66%)、30 代 88 名 (19%)、40 代 29 名 (6.3%)、50 代 15 名 (3.3%)、60 代以上 24 名 (5.2%)

職種：施工管理 389 名 (84%)、CAD オペレーター 9 名 (2%)、事務職 48 名 (10%)、他

アーキ・ジャパンについて

会社名：株式会社アーキ・ジャパン

代表者：代表取締役社長 吉田 周平

本社所在地：〒163-0805 東京都新宿区西新宿 2-4-1 新宿 NS ビル 5 階

ホームページ：<https://akijapan.co.jp/>

設立年月日：2007 年（平成 19 年）2 月 26 日

資本金：1000 万円 従業員数：2,047 名（2022 年 10 月現在）

業務内容：建設業に特化した人材アウトソーシング業務

【アーキ・ジャパン公式 note】 https://note.com/akijapan_note

※本内容の転載にあたりましては、「アーキ・ジャパン調べ」とクレジットを付記のうえご使用くださいますよう、お願い申し上げます。

【本件に関するお問い合わせについて】

株式会社アーキ・ジャパン 担当：採用統括部採用戦略グループ 齋藤・一柳

電話：03-5909-2512 E-mail：pr_marketing@akijapan.co.jp